－所蔵作品紹介－

植木　茂　UEKI Sigeru

トルソ

作品データはこちら

日本の抽象彫刻のパイオニアと言われる植木茂は札幌の出身である。札幌第一中学校（現在の札幌南高校）を卒業後、同郷の画家三岸好太郎に油彩画を学んだ。やがて彫刻に転じ、戦前から前衛的な彫刻を自由美術展に出品した。戦後は長く大阪府に住み、自由美術展を脱退して1950年にモダンアート協会を結成した（1954年に退会）。木彫、家具、モニュメントなどを中心に幅広い活動を行い、1956年にはヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど日本を代表する彫刻家の一人として活躍した。

トルソは、彼が長年追求したテーマである。アルプなどの影響をうかがわせるが、柔らかい彫刻の稜線を見せるこの作品は、人体のようにも見えるだけでなく、自然の中のさまざまな有機的な形を想像させる。実際、彼の制作は自然流であり、木を素材とする造形の味わいを豊かに伝えてくれる。東洋的な要素を持った「抽象」彫刻と言うべきであろう。

「北海道立旭川美術館コレクション選集 1982-1997」（1998 年 3 月発行）より